

プロジェクト報告書

団体名 社会福祉法人慈生会 ベトレヘム学園

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

職員団結・資質向上研修プログラム

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

様々な背景を抱えた児童と接し、その心のケアを日常の中で考えていくために、職員の専門性の資質の向上、仕事をする上でのチームワーク力を高める必要があります。今回、与えられた中で考えるのではなく、職員自らが考えるということを主に研修を行います。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

①「運営指針とベトレヘム学園養護(事業)計画書」今春に出された運営指針を施設長より説明され、学園の養護(事業)計画書がどのようにリンクしているのかをグループで話し合い、指針から学園の計画書の取り入れるものなども考えました。②「専門機能強化型児童養護施設 H24 年度報告会」学園の内の委員会からの発表。職員自らが同僚に向けてわかりやすく事業を説明しました。③「職場の問題解決～インシデントプロセス法～」学園の外部スーパーバイザーである尾崎真三氏(ルーテル学院大学)。職員が出した事例をインシデントプロセス法を使って、事例の背景を聞きだし、何が問題であるのかを考えました。④「学園の収入について」施設のお金の流れを職員が説明し、皆で共有し、自分たちなりに工夫できる点があるのかを検討しました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

《工夫点》 今回、外部からの講師を呼んでの研修ではなく、自分たちの中から発信しようということを心がけました。施設内の委員会活動からの報告、会計専門ではない職員からの発題、施設長からの政策の話など、自前のものを利用して、わかりやすい、手の届く理解をしようと考えました。

《効果》 一緒に働いている仲間からの報告、発題ということもあって、聞きやすい、何でも話せる場が作られたのではないかと思います。知識量としてはまだまだですが、自分たちの今理解できることをしてきたのではないかと思います。外部から参加して頂いた方々からも意見や発言に活発さがみられたとの感想を頂きました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

このような泊研修を3年間実施してきて、年々職員の自発性、主体性が感じられるようになってきています。それは、日頃からの月1回施設内研修の活動があつてのことと思われます。毎回、感想・意見を求められていく中で、次第にわずかな時間で、自分の考えをまとめられて書くようになってきています。この効果が全体に広がってきていることは嬉しいことです。今後は、全体的な職員力を上げるのではなく、ある層に焦点づけ、各論的なテーマで職員力を上げていきたいという職員研修の次のステージを考えていきたいと思っています。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし